

# ユニ・ソイルの管理基準を制定

## 日本リ・ソイル工業協同組合

### NETIS、V技術として

環境省認可の日本リ・ソイル工業協同組合（仙台市、熊木繁雄理事長は11月12日、都内で理事会および技術研修

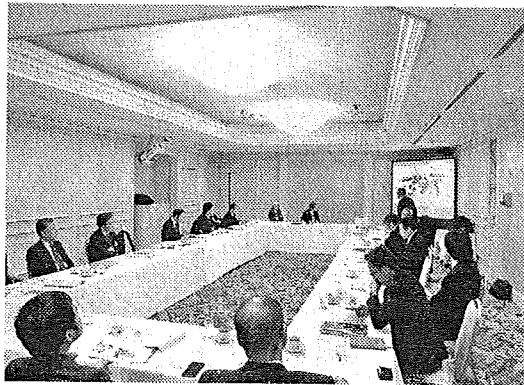


熊木繁雄理事長

会を開催し、組合企業で製造している建設汚泥のリサイクル品で、NETISのV技術として認定されているユニ・ソイルについて管理基準を制定した。

環境省管轄の廃棄物処理法上での汚泥と国交省管轄の建設汚泥処理土利用基準の両方を満たしていなければいけない」など、受け入れ基準の明確化などが鍵になる点を指摘した。また、リサイクル材については環告46の順守や国土交通省にお

活発に意見交換が行われた



いては含有量試験の必要性について述べ、コン指数、一軸圧縮強度試験、粒度分布などの基準値と試験頻度な

るあらゆる基準が厳しくなることが予想される。管理基準の順守はもとより試験依頼する場合、しっかりとした

機関に依頼することが重要だ」と話した。また会員企業の活動報告として、吉田レミコン（青森県八戸市）の神子澤建三社長は、同社がこれまで行ってきたリサイクル事業について述べた。宮城県

大学の食産農学部とともに、ユニ・ソイル技術をベースにしたカキがらと浄水汚泥等から製造するリコ・ソイルを使用して作る「リコ・ソイル米」は、食味試験についても良好な結

どを示した。続いて岡田産業の轟清司部長からは各土質試験項目の概要について詳細な説明があり、「現在報道されている杭打ち不正の問題の影響もあり、公共工事に関す

果を残しており、現在「ゆきおとめ」として商標登録も済み、販売開始に向けて準備に入っている。熊木理事長は「ユニ・ソイルは、NETISのV技術として認証され、復興やオリンピック、再開発に関する多くの工事で使用される可能性が高い。それだけ責任も大きくなるため、一つ一つの仕事をこれまで以上に大切にしていかなければならない」と話した。